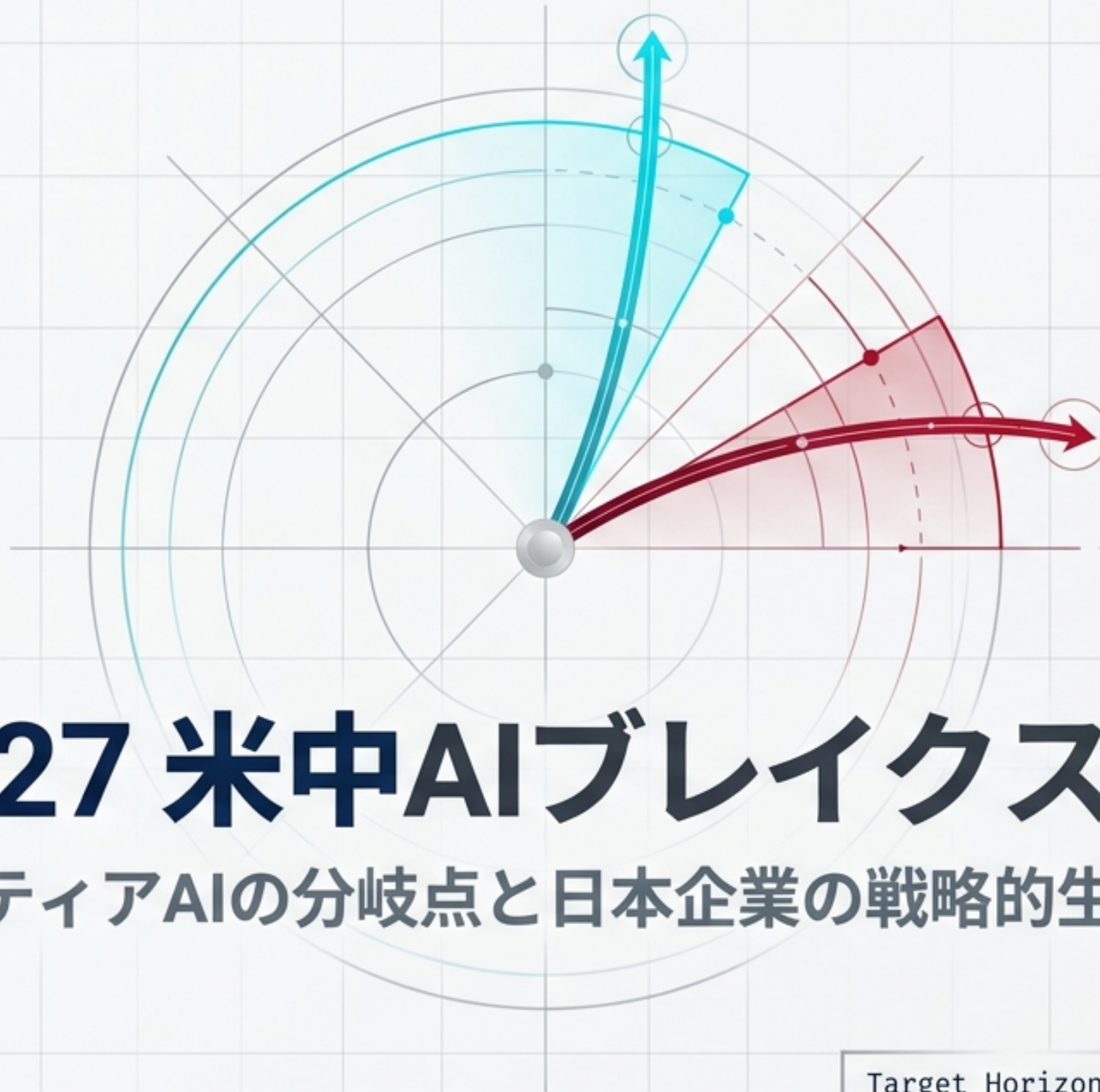




2026-2027 米中AIブレイクスルー予測

フロンティアAIの分岐点と日本企業の戦略的生存基盤

Target Horizon: 2026 Q3 - 2027 Q4
Document Type: Strategic Intelligence Briefing

エグゼクティブ・サマリー：パラダイムの移行



スケーリング則の重心移動

事前学習へのデータ投入偏重から、推論時計算（Inference Compute）とRLスケーリングへ主戦場が移行。



物理的ボトルネックの顕在化

競争の制約要因はアルゴリズムから、GW級の電力確保、HBM4の歩留まり、そして巨額の資本力（Capex）へシフト。



米中二層構造の固定化

米国は「クローズド最高性能と垂直統合」、**中国**は「オープンウェイト・コスト効率・主権」で棲み分ける中位シナリオ（僅差リード継続）が最有力。

技術的ブレイクスルー：事前学習から推論・RLへのシフト

第1フェーズ (2020-2025) :
事前学習の時代

データ量の壁。
単純なスケール
ングの限界。

第2フェーズ (2026-2027) :
推論時計算・RLスケーリング

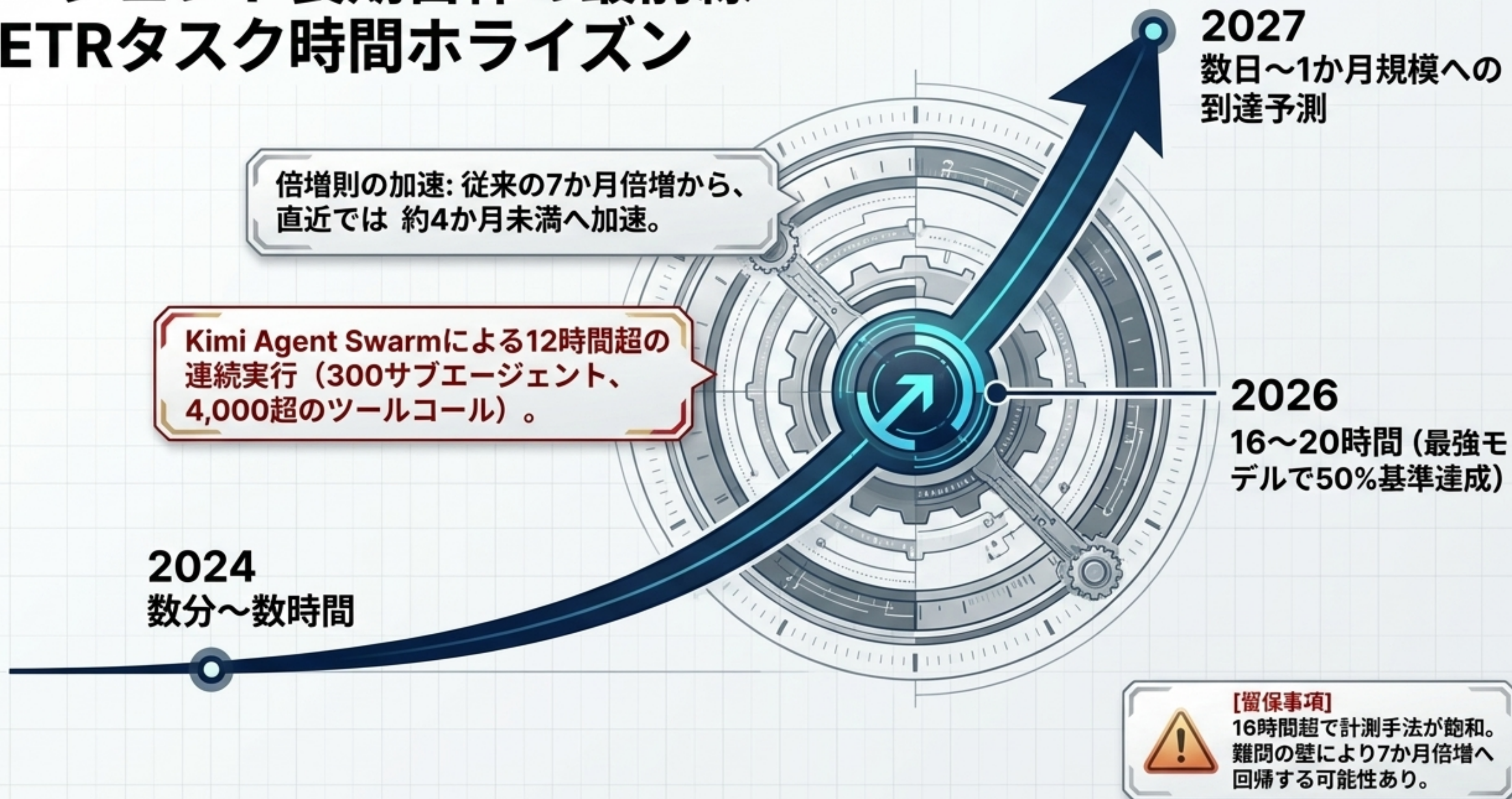
o1→o3で10倍超の
RLスケーリング向上。
Train-to-Test統合の標準化。

Dashboard Card

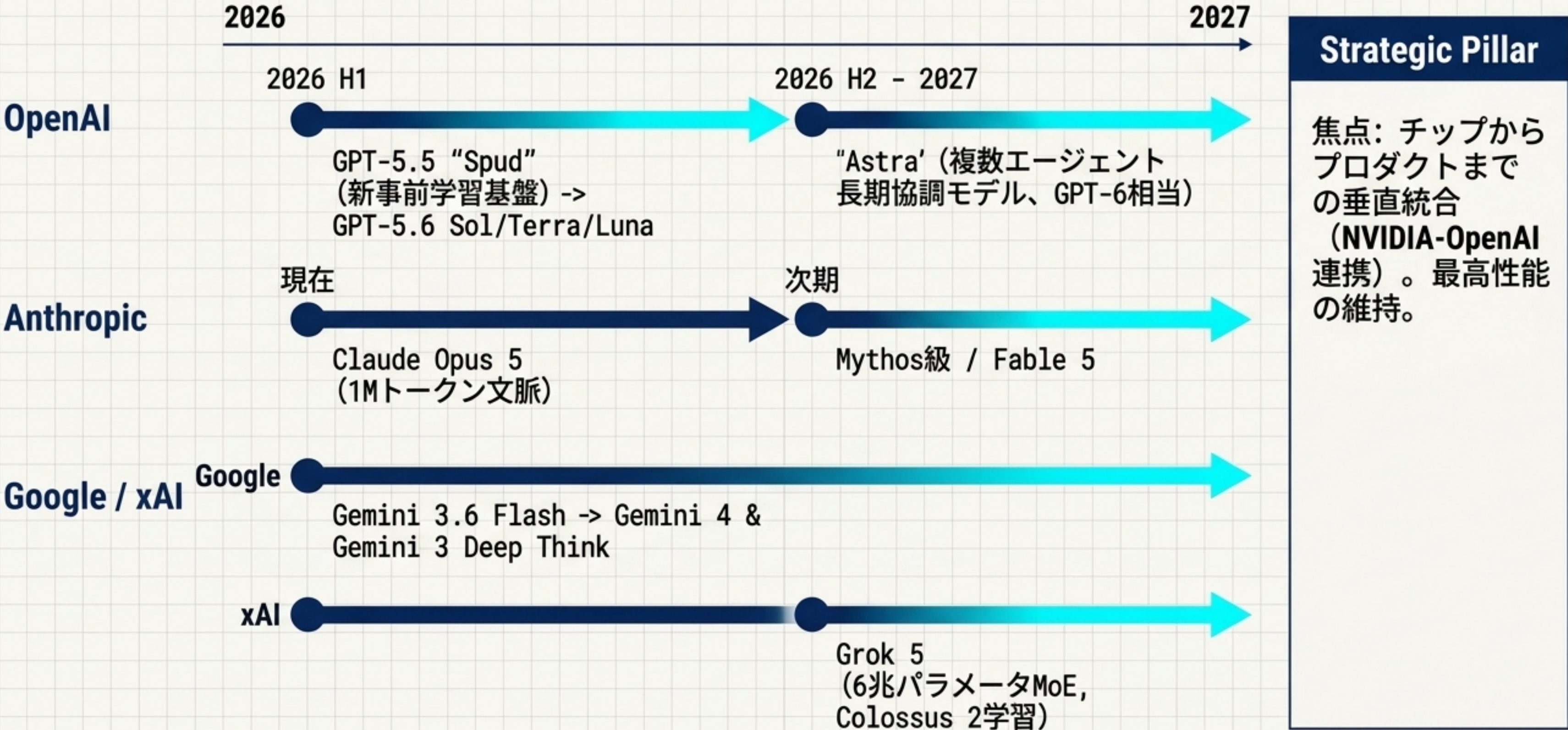
継続学習・長期記憶の実用化

NVIDIA TTT-E2Eによる文脈の学習データ化。パラメータ更新型記憶が主力モデルへ実装される分水嶺。

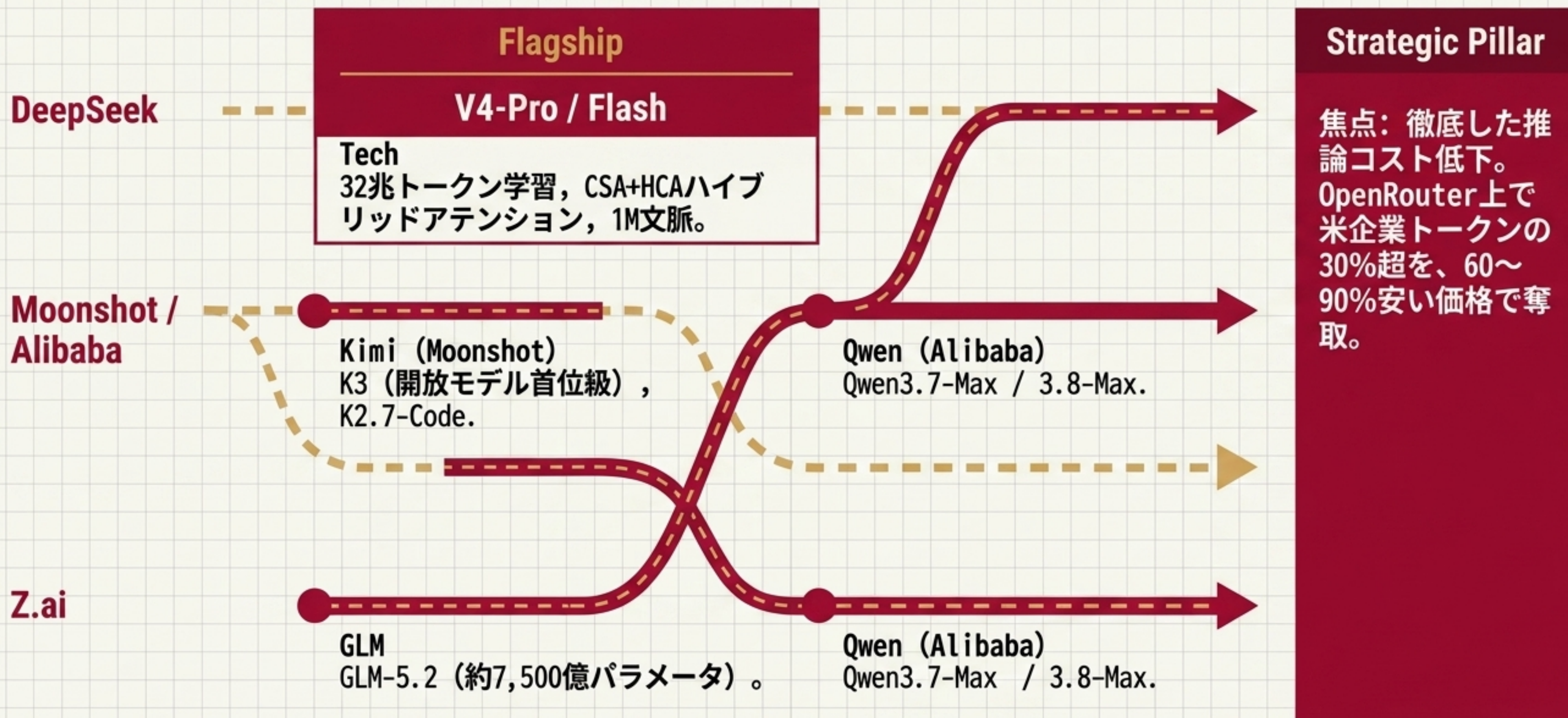
エージェント長期自律の最前線： METRタスク時間ホライズン



米国フロンティア・ロードマップ：クローズド最高性能の追求



中国フロンティア・ロードマップ：オープンウェイトとコスト覇権



2027年 実用化が予測される3つの技術的ブレイクスルー

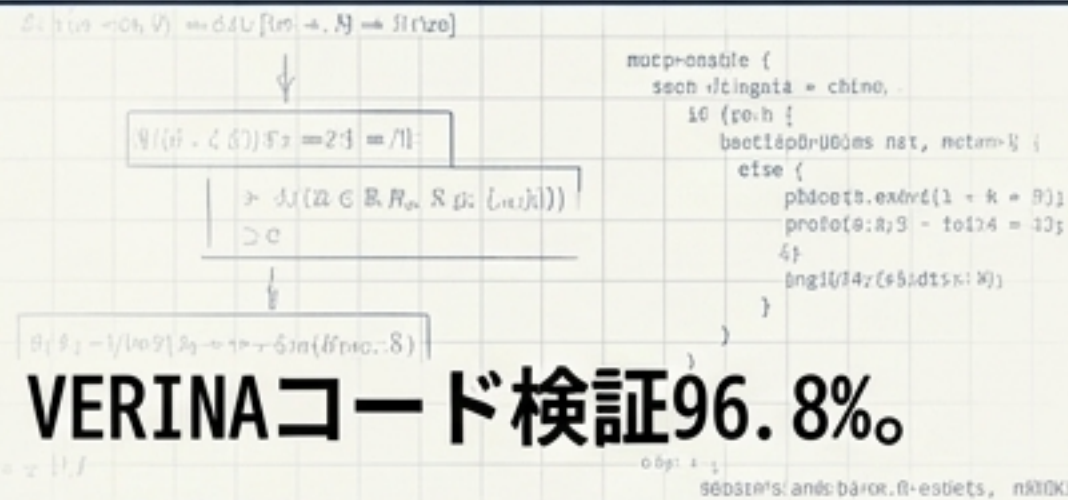
超長文脈・ハイブリッドアテンション (High Certainty)

1,000万トークン級が主流化。純Transformer比率が低下し、ハイブリッドMoE (DeepSeek CSA+HCA等) が本番品質へ。



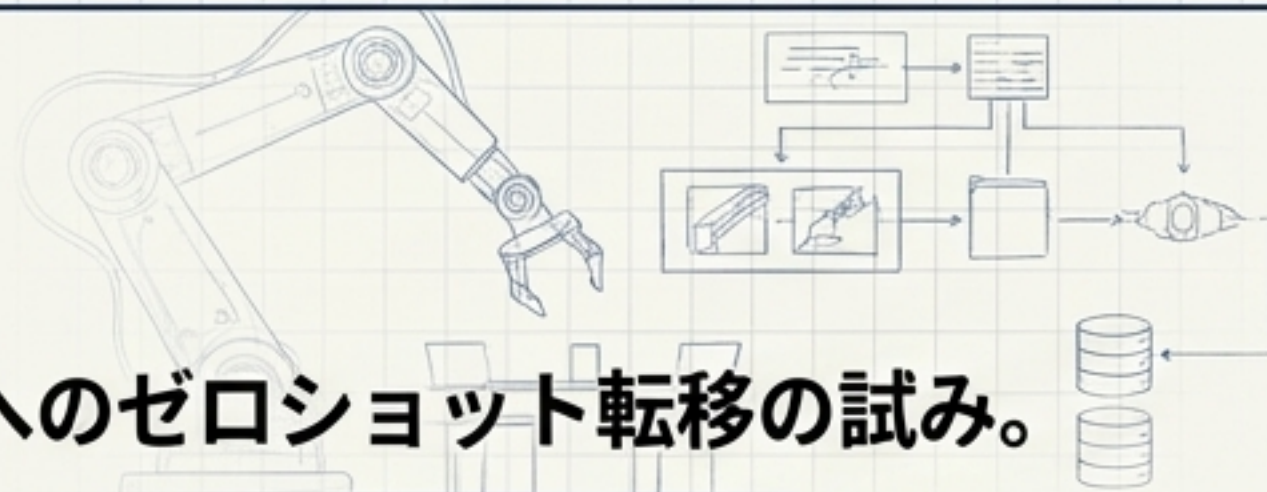
数学・科学の自律的発見 (Mid-High Certainty)

形式検証の統合が競技から研究レベルへ。
Harmonic 'Aristotle' (IMO金メダル相当、Lean 4形式検証)。VERINAコード検証96.8%。

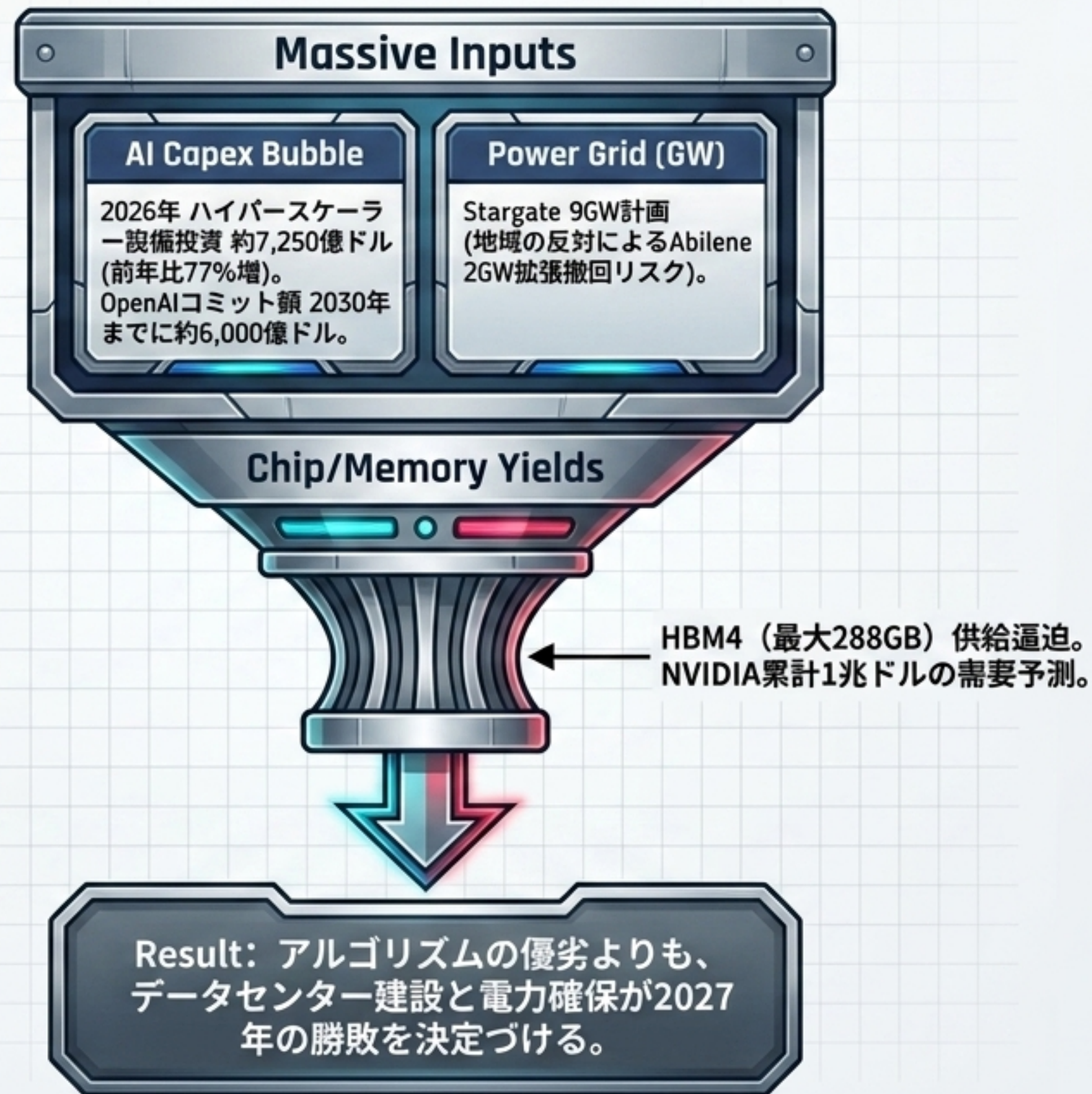


世界モデル・フィジカルAI (Mid Certainty)

シミュレーション・合成データ用途での実用化。
Google Genie 3, NVIDIA Cosmos/GR00T N1.6による実機へのゼロショット転移の試み。



真のボトルネック：データではなく「物理法則と資本」



半導体規制と中国のハードウェア自律化ロードマップ

US Export Controls & Superiority

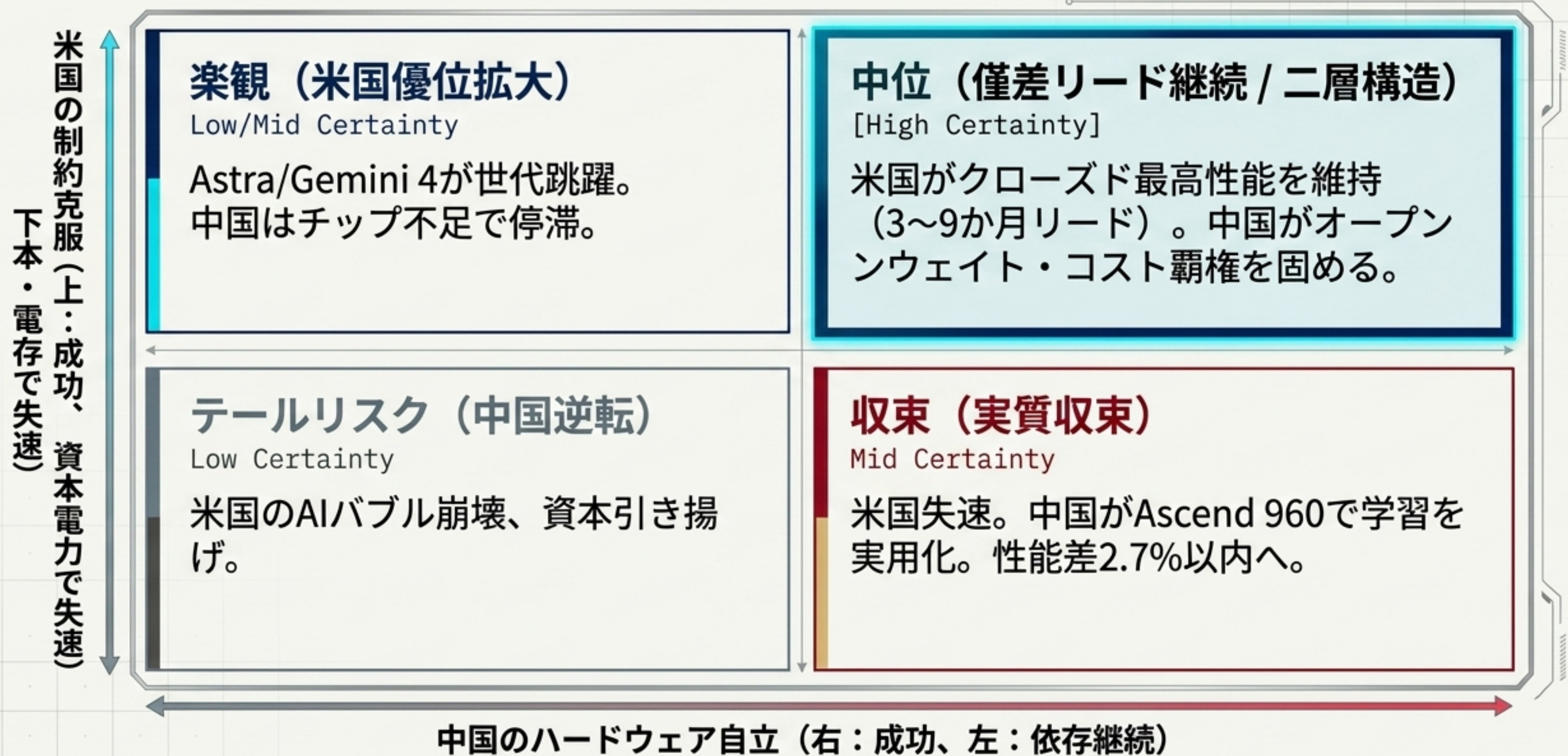
- Compute Gap: 2026年時点での対中コンピュート優位は21~49倍。
- Realities: H200の対中データセンター実出荷は「ごく僅か」。密輸推計は29万~160万H100相当と実態把握が困難。

China's Domestic Stack (Huawei Ascend)



Strategy: ノード/クラスタ級 (Atlas 950/960 SuperPoD) での台数集約により、単体性能の劣後をカバー。

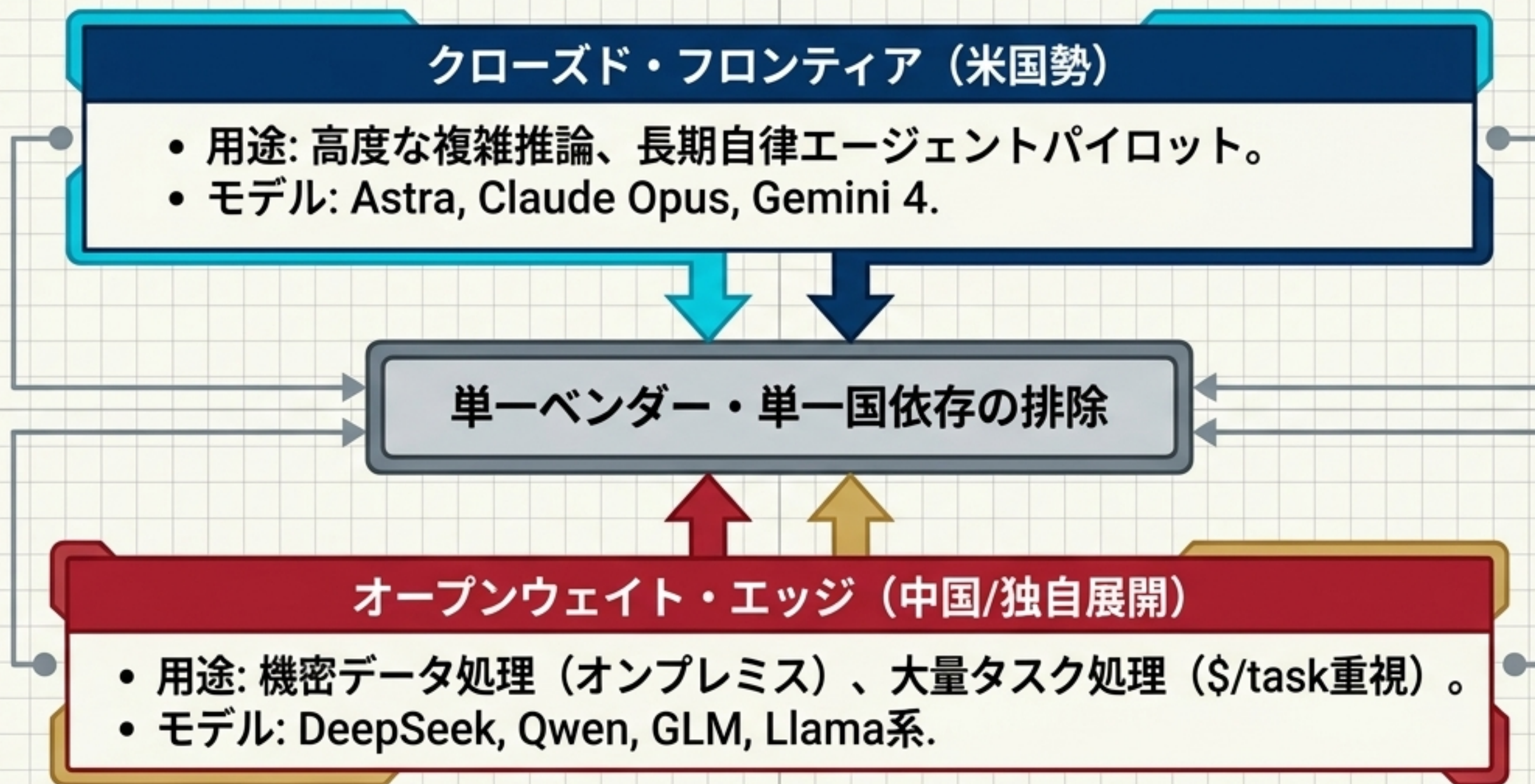
2027年末：米中AIギャップ 4つのシナリオ



根本的な戦略的分岐：パフォーマンス vs. コスト/主権

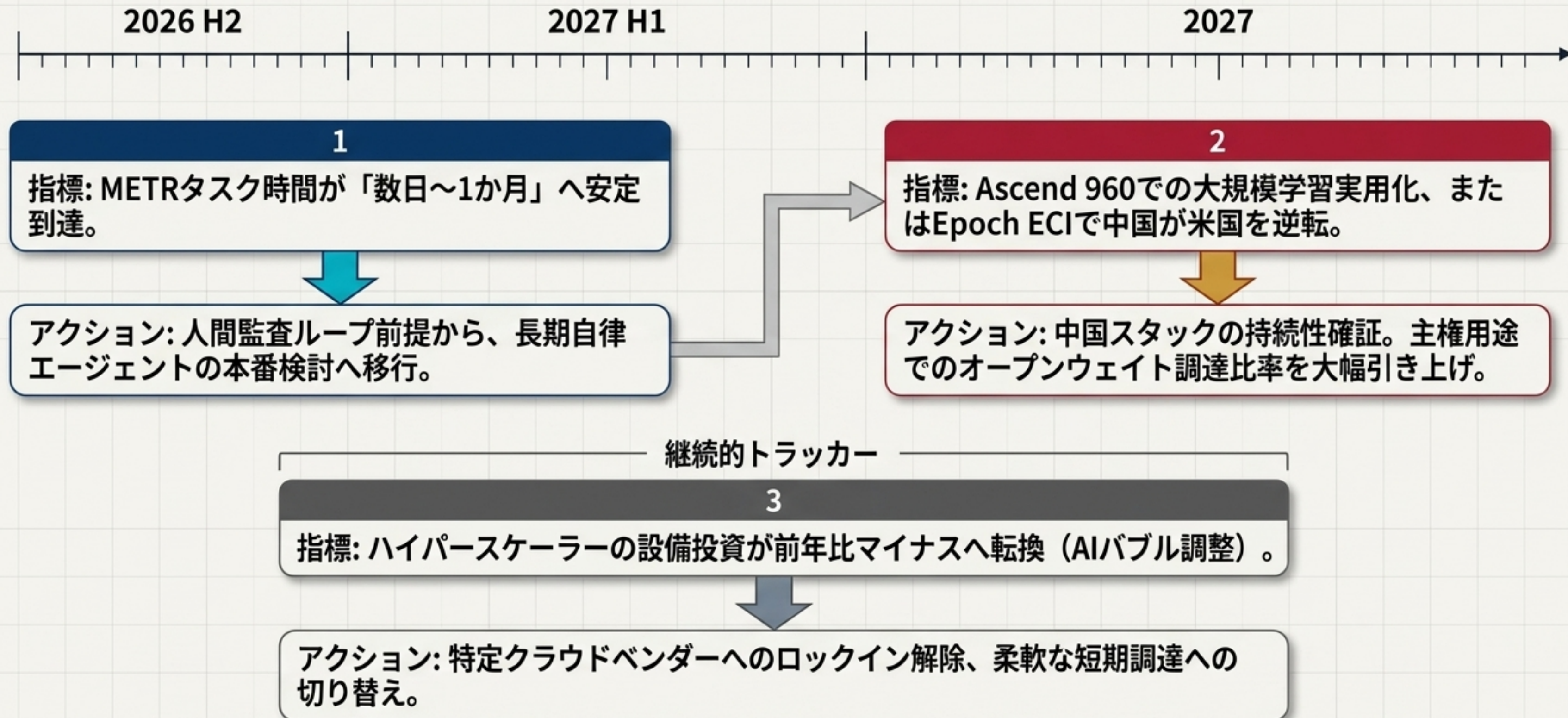
	US (Closed/Performance)	China (Open/Cost/Sovereignty)
モデルフォーマット	クローズドAPI中心 (Meta後退によりオープン化は限定的)	オープンウェイト中心 (カスタマイズ性重視)
基盤ハードウェア	NVIDIA (Blackwell / Rubin) への極端な集中	国産チップ (Ascend 960) への移行とクラスタ集約
コスト構造	超巨大投資 (7,250億ドル規模) と高価格帯API	蒸留技術による推論コストの極限低下 (米国の1/10規模の価格設定)
ターゲット市場	AGI到達とエンタープライズ垂直統合	グローバル・サウスを含むコスト敏感層、および主権AI (Sovereign AI) 需要

日本企業への含意：デュアル・トラック・アーキテクチャの構築



アクセス撤回リスク: 2026年6月の米政府によるClaude Fable/Mythos海外アクセス停止事例が示す通り、クリティカル用途の国産/オープンウェイトによる冗長化は必須。

アクション・トリガー：観測すべき先行指標と対応



結論：単一のAGIモノリスの終焉



「2027年のAI生態系は、米国の『最高性能』と中国の『コスト・主権』による二層構造へと完全に分離する。
日本企業の勝機は、どちらか一方を選ぶことなく、この分岐した現実を統合するマルチベンダー調達力に依存する。」

Next Steps: 主力業務モデルの評価指標を「知能指数」単独から「\$/task」「タスク時間ホライズン」の複合指標へ直ちに移行せよ。